

九州でクロマグロの養殖が活況を呈している。高級マグロとして人気の高いクロマグロは資源保護のための漁獲規制が強化されているのを受け、人工ふ化した稚魚を使う「完全養殖」も広がり始めた。中国などアジアでもクロマグロ需要は拡大基調で、アジアに地理的に近い九州の養殖事業者はアジア市場の開拓にも乗り出した。

リアス式海岸に囲まれた長崎県五島市の玉之浦湾。漁港から船で10分ほどの海上に直径20〜30センチの円形いけすが3つ並んでいる。いけすの周囲に組んだ足場から、作業員が餌のサバをいけすに投げ込むと、それに飛び付く魚の動きで水面は途端

クロマグロ養殖に追い風

ににぎやかになる。

いけすの中にあるのは「ヨコワ」と呼ぶクロマグロの幼魚だ。豊田通商がクロマグロの人工ふ化に世界で初めて成功した近畿大学の協力を得て、2010年からヨコワの養殖に乗り出している。

同社が手掛けるのはマグロの養殖事業者に出荷するヨコワを育てる「中

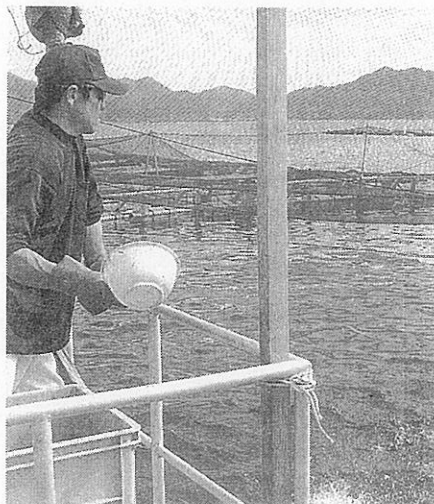
地の利生かしアジア狙う

間育成」。近大で人工ふ化した体長約6センチの稚魚を同30センチ(重量700グラム程度)まで育てて出荷する。今年の出荷量は2万匹を見込み、今月8日には第1弾として1万5000匹を長崎県内の養殖事業者な

「完全養殖」も広がり始めた。中国などアジアでもクロマグロ需要は拡大基調で、アジアに地理的に近い九州の養殖事業者はアジア市場の開拓にも乗り出した。

同社が手掛けるのはマグロの養殖事業者に出荷するヨコワを育てる「中

間育成」。近大で人工ふ化した体長約6センチの稚魚を同30センチ(重量700グラム程度)まで育てて出荷する。今年の出荷量は2万匹を見込み、今月8日には第1弾として1万5000匹を長崎県内の養殖事業者な



豊田通商は長崎県五島市で養殖業者向けのヨコワを育てる

に入れてる。

に年間5万匹の出荷体制を確立する方針だ。

「『完全養殖』というサステナブル(持続可能なイメージが海外で受け入れられている」。近大から仕入れたヨコワを養殖しているプリミー(熊本県天草市、浜忠臣社長)に出資する投資ファンD、ドーガン・インベス

浦市で養殖するクロマグロを福岡空港から中国・大連に空輸した。水揚げから店頭まで3〜4日間と国内とほぼ同じ。冷凍せず生鮮のまま出荷できることが、中国輸出のきっかけになった。

龍平取締役は話す。プリミーの養殖マグロの3〜4割は米国を中心とする海外だ。「国内市場は人口減で縮小するたゆ術や地理的要件を追い風め、海外への展開が出資に九州産クロマグロがア条件だった」(林取締役)。(菊池貴之)

アジア市場の開拓も視野

ふ化から手掛け安定出荷

アジアに近い九州の地理的優位性は養殖マグロ事業にも有利に働く。双日は今年3月、長崎県松浦市で養殖するクロマグ

全国約130カ所にある九州に集中。完全養殖技術や地理的要件を追い風め、海外への展開が出資に九州産クロマグロがア条件だった」(林取締役)。(菊池貴之)